

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：62603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K09123

研究課題名(和文)自殺希少/多発地域のコミュニティ特性と子どもの社会的スキル会得に関する追跡調査

研究課題名(英文)A cohort study of community characteristics and children's social skills acquisition in suicide rare/high suicide areas

研究代表者

岡 檀 (Oka, Mayumi)

統計数理研究所・医療健康データ科学研究センター・特任准教授

研究者番号：10649247

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：自殺希少地域および多発地域において、コホートスタディ「未来を生き抜く力、見つけたい；子どもの心の健康と生きる力、成育環境に関する調査」を実施した。研究助成期間中にコホートスタディの対象となったのは、二つの自治体に在住する小学生全員515名(回収率99.2%)、中学生全員121名(同94.2%)、保護者754名(同81.8%)であり、個々人に対し隔年で追跡調査を行った。初年度は横断分析、次年度以降は縦断分析を行った。小学校から中学へ進学する過程で「中1ギャップ」になりやすい子どもの特性を抽出した。子どもの心の健康には、周囲の大人の価値観やふるまいが関係している可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

少子化の影響があり地方の町村で子どものデータを蓄積するには年数を要するが、標本調査ではなく、二つの自治体に在住する小学生・中学生の全数調査であることの価値は高い。子どもが心の健康を保つために重要な要素のひとつとして、思考の柔軟性が関係していることが明らかとなったことから、教育現場や家庭でも短時間で行える簡易な「やわらかな思考」トレーニングの案を作り、検討しているところである。

研究成果の概要(英文)：Cohort Study: "Finding the Capacity to Survive in the Future," in suicide-rare and high-suicide areas ; a survey of children's mental health, life skills, and living environment with adults". During the grant period, 515 elementary school students (response rate of 99.2%), 121 junior high school students (94.2%), and 754 parents (81.8%) participated in the cohort study. A follow-up survey was conducted biennially. The aggregated data were used for cross-sectional analysis in the first year and longitudinal analysis in the following years. The characteristics of children who were more likely to be in the "middle school gap" during the process of moving from elementary school to middle school were extracted. It was suggested that the attitudes of the adults around them may be related to the children's mental health and flexibility of thinking.

研究分野：健康社会学、環境疫学、コミュニティ心理学

キーワード：自殺予防 子ども 社会スキル 成育環境 コホートスタディ

1. 研究開始当初の背景

これまで私は、自殺希少地域 = 自殺が極めて少ない地域を主たる対象に、自殺多発地域を比較対象として、質的・量的混合アプローチによる研究を行ってきた。本研究から明らかになった自殺予防因子(自殺発生を抑制する要素)は、緊密過ぎない緩やかな紐帯、異分子への寛容と多様性重視、長期的・多角的視点での人物評価、有能感・自己効力感の醸成、適切な援助希求行動、である。自殺希少地域の住民が有している独特の社会スキルは、意図的な教育や啓発の成果ではなく、成育過程で無意識のうちに習得されていることが明らかとなった。

そこで研究の次の段階へ進み、同地域の住民を対象としたコホートスタディ「未来を生き抜く力、見つけたい;子どもの心の健康と生きる力、成育環境に関する調査」に着手することとした。

2. 研究の目的

本研究は、子どもが社会的スキルを会得する過程に注目して行う。得られた知見から、子どもの「未来を生き抜く力」をはぐくむことを目指す。

3. 研究の方法

徳島県海陽町に在住する小学5年生と中学生1年生全員、その保護者、徳島県三好市に在住する小学5年生全員、その保護者に対し、コホートスタディ(個々人に対し、隔年で追跡調査)を行った。海陽町は2017年から、三好市は2018年から開始した。

調査項目は、個々人の思考や行動パターン、地域社会の規範や価値観などを理解するための内容で構成し、併せて心の健康状態を客観的に測定するK6テストも行った。無記名・自記式である。

得られたデータはすべてIDで管理し、匿名化された状態で分析を行った。

4. 研究成果

研究助成期間中にアンケート調査の対象となったのは、小学生515名(回収率99.2%)、中学生121名(同94.2%)、保護者754名(同81.8%)であった。集計したデータを用いて、初年度は横断分析、次年度以降は縦断分析を行った。

得られた結果を分析したところ、多数に同調する傾向のある子ども、思考が硬直的である子どもはそうでない子どもに比べ、心の健康のバランスが良好でなく、悩みがあっても開示することに困難や抵抗を感じている可能性が示唆された。そうした特性を持つ子どもはそうでない子どもに比べ、中学に進学した際に中1ギャップ(新しい学校環境になじめず落ち込んだり不登校になったりする現象)になりやすいという関係が示唆された。また、中1ギャップもしくは中1ギャップ傾向にある子どもはそうでない子どもに比べ、周囲に古くからの男女役割観を持つ大人が多いと感じており、こうした大人の態度が成長過程にある子どもの閉塞感を強めて

いるという仮説を得るにいたった。

以上の結果については、年度ごとに、2種類の印刷物；全体結果冊子、個人結果シートにまとめ、自治体の心の健康リーフレットとともに各家庭へ直接返送した。同時に、一般住民、教育や福祉関係者らを対象として講演会や意見交換会を行い、結果の説明、質疑応答、意見聴取などを行った。

これまでに得られた知見をふまえ、子どもの弾力的な思考をはぐくむことを目的に、教育現場や家庭でも短時間で容易に行える「やわらかな思考」トレーニングの案を検討した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 岡檀、谷口亮、石川剛、坂本圭、大平悠季、織田澤利守	4. 巻 17
2. 論文標題 コミュニティの空間構造特性と住民の思考および行動様式の関係；「路地」推定ロジックの構築と検証の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 355-359
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 岡檀	4. 巻 35
2. 論文標題 生き心地の良さとは何か 日本で“最も”自殺の少ない町の調査から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Anjali	6. 最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岡檀、立森久照、馬場俊明、水野雅文	4. 巻 27
2. 論文標題 誌上座談会「メンタルヘルス疫学」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本社会精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 6-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岡檀	4. 巻 18
2. 論文標題 「無意識に」取られる健康行動への着目；和歌山県、高血圧発症率ワースト一位からの脱却を目指して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ひと・健康・未来	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡檀	4. 巻 5
2. 論文標題 ゆるやかにつながる生き方	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 こころの健康シリーズ 「21世紀のメンタルヘルス」	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡檀	4. 巻 134
2. 論文標題 都市の未来をこの町に見出す；日本には海部町がある (Discover the light for future in Kaifu-Town, the area with the "lowest" suicide incidence in Japan)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築雑誌	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 岡檀
2. 発表標題 地域の強みを活かし、カスタマイズ施策を
3. 学会等名 全国国保地域医療学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡檀、山内慶太、大森哲郎
2. 発表標題 児童の思考と行動パターンの習得に関するコホートスタディ；援助希求行動を促す資質への着眼
3. 学会等名 日本自殺予防学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷口亮、石川剛、坂本圭、岡檀
2. 発表標題 GISによる路地存在エリア抽出法の検討
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷口亮、石川剛、坂本圭、岡檀
2. 発表標題 街区単位における路地存在エリア抽出法の構築
3. 学会等名 GISA地理情報システム学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋広計、久保田貴文、竹林由武、岡檀
2. 発表標題 自殺対策のための公的情報利活用の基盤整備；地域データ分析を可能にするオンサイト拠点形成と利活用
3. 学会等名 自殺対策推進レアル
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田貴文、竹林由武、岡檀、岡本基
2. 発表標題 総合的自殺対策に資する公的マイクロデータおよび、オープンデータによる総合的製作形成支援モデルの開発
3. 学会等名 自殺対策推進レアル
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡檀、谷口亮、石川剛、大平悠季、織田澤利守
2. 発表標題 コミュニティの空間構造特性と住民の援助希求行動との関係～自殺希少地域X町の「路地」に焦点を当てて～
3. 学会等名 日本社会精神医学会
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 Mayumi Oka
2. 発表標題 Protective factors for suicide found in the area with rare suicide incidence in Japan
3. 学会等名 World Congress of the International Association for Suicide Prevention
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mayumi Oka
2. 発表標題 Protective Factors for Suicide That are Common Across Areas With Low Suicide Incidence
3. 学会等名 International Association of Gerontology and Geriatrics
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡檀
2. 発表標題 道草は必須、脱線はチャンス 日本で最も自殺が少ない町での4年間のフィールドワークから
3. 学会等名 日本コミュニティ心理学会第20回記念大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡檀、大森哲郎、山内慶太
2. 発表標題 子どもの思考と行動に関するコホートスタディ(第一報); 援助希求行動を促すペイ・フォワード感覚への着眼
3. 学会等名 第37回日本社会精神医学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大森 哲郎 (Omori Tetsuro) (00221135)	徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学域)・教授 (16101)	
研究分担者	山内 慶太 (Yamauchi Keita) (60255552)	慶應義塾大学・看護医療学部(藤沢)・教授 (32612)	